



# 1億2千万の、

## 黄色いリボンを。

「共」 預けることは珍しくありません。家庭で看病できない重い病を患ったなら、当然、病院で診察を受けるでしょう。つまり保育所や病院と、共働きの夫婦や病気を患ってしまった人たちにとって、「不安を持たず働く」とも、「健康ながらでも取り戻す」という、いわば幸せに生きる」うえで必要な「かけ」「つまりシステムのひとつ」。ですがそのシステムも、この障害者や高齢者の

会は「健常者」の平均値から割り出したシステムで構成されていると映るのではないかでしょうか。社会リハビリテーション学科で学科長を務める黒田教授が専門としている分野は「障害者や高齢者も生きやすい社会を実現するための「かけづくり」「福祉システム」と呼ばれる分野です。福祉用具のものづくりや行政制度の改革など、そのフレームは広く、社会を構成するあらゆる面において語りたいと言つて過言ではありません。

神戸学院大学  
総合リハビリテーション学部  
社会リハビリテーション学科長  
**黒田 大治郎**  
KURODA DAJIRÔ

視点から見ればどうでしょうか。

車いすに乗るごと、街中の段差は10メートルの壁と同じ。駆け足でのぎない高齢者にとって、高速で回る回転自動ドアは開かずの扉と変わりません。つまり障害者や高齢者の立場から見れば、現代社

障害を持つことや、高齢から身体機能が低下することには、「かけ」して「幸せに生きる権利」を失うということではありません。バリアフリーの道が整備されていれば歩くこと変わらず車いすで移動ができます。高齢者の歩く速度に合わせた自動ドアならば、立ち往生することだってないでしょう。

ですが黒田教授は、行政・福祉施設・民間企業・大学と異なる分野での経験を通してみて、なにより重要なことは「皆が障害や高齢まで見据えた社会のシステムづくりが重要である」と考えてています。黒田教授は社会リハビリテーションの概念を話すとき、いつもひとつのエピソードを引き合いに出します。

「黄色いリボン」という物語を存知でしょうか?

ピート・ハミルの短編集に収められたこの物語は、日本では「幸せの黄色いハンカチ」として映画化されたこともあり、そちらを御覧になった方も多いことでしょう。

「もし、おれを迎えてくれるなら、街の入り口に立つオークの大木に、黄色いリボンを結んでいてほしい。」

それが、刑務所を出所したひとりの男が、妻への手紙に込めた約束です。3年の間罪を償つた彼は、

車いすに乗るごと、街中の段差は10メートルの壁と同じ。駆け足でのぎない高齢者にとって、高速で回る回転自動ドアは開かずの扉と変わりません。つまり障害者や高齢者の立場から見れば、現代社

障害を持つことや、高齢から身体機能が低下することには、「かけ」して「幸せに生きる権利」を失うといふことではありません。バリアフリーの道が整備されていれば歩くこと変わらず車いすで移動ができます。高齢者の歩く速度に合わせた自動ドアならば、立ち往生することだってないでしょう。

ですが黒田教授は、行政・福祉施設・民間企業・大学と異なる分野での経験を通してみて、なにより重要なことは「皆が障害や高齢まで見据えた社会のシステムづくりが重要である」と考えてています。黒田教授は社会リハビリテーションの概念を話すとき、いつもひとつのエピソードを引き合いに出します。

「黄色いリボン」という物語を存知でしょうか?

ピート・ハミルの短編集に収められたこの物語は、日本では「幸せの黄色いハンカチ」として映画化されたこともあり、そちらを御観になった方も多いことでしょう。

「もし、おれを迎えてくれるなら、街の入り口に立つオークの大木に、黄色いリボンを結んでいてほしい。」

それが、刑務所を出所したひとりの男が、妻への手紙に込めた約束です。3年の間罪を償つた彼は、

かつて暮らした街へ向かうバスの中で、不安でたまらない。自分に帰るところはあるのか。もしリボンが結ばれていないからだ。この短い物語の結びは妻からの答える言葉とともに、とても叙情的な表現で締めくられています。



「大木が、瞬黄色に燃え立つ陽炎のように映った。」

オーラの木は、結ばれた数百もの黄色いリボンで、まるで歓迎の旗印ようにそびえ立っていました。

綴られています。

でも、少し不思議に思いませんか?主人公の奥さん一人で、どうやって数百ものリボンをオーラの木に結びつけたのかって。

黒田教授は、その背景にこんなロマンティックな空想を膨らませました。

「きっと、その家族のことを知った街の住民が、みんなで結んだんじゃないだろうか。」

黒田教授は、社会リハビリテーションの重要な役割であると考えているのです。

迎え入れる黒田教授は、社会リハビリテーションがめざすシステム造りも、この物語のようであるべきだと話します。障害や高齢で生きにくくなったり人々に、社会全体が黄色いリボンを結びつけて迎え入れる。システムだけでなく、そんな意識を浸透させることも、黒田教授は社会リハビリテーションの重要な役割であると考えています。

黒田教授のめざすもの。それは、いつかたつたりが思いを同じくし、

「その国は、瞬黄色に燃え立つ陽炎のように映つた。」



# 神戸学院大学

●有瀬キャンパス／〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL.078-974-1551(代表) FAX.078-974-5689

[法学部] 法律学科・国際関係法学科 [経済学部] 経済学科・国際経済学科 [経営学部] 経営学科 [人文学部] 人文学科(2006年4月開設)・人間心理学科 [総合リハビリテーション学部] 医療リハビリテーション学科・社会リハビリテーション学科 [栄養学部] 栄養学科 [薬学部] 薬学科(2006年4月、6年制学部開設予定。申請中) [大学院] 法学研究科・経済学研究科・人間文化学研究科・栄養学研究科・薬学研究科・食品薬品総合科学研究所

●長田キャンパス／〒653-0862 神戸市長田区西山町2-3-3 TEL.078-691-4888(代表) FAX.078-691-4333 実務法学研究科(法科大学院)

●ポートアイランド新キャンパス | 2007年4月開設予定